



紙上講演

半端な學問より 手に職が大切

衣食費向ふ持ちで學問させる 徒弟奉公は子供の爲め也

時節柄本號に於て紙上講演といふ状態でありませぬ、前記の標題で一席辯じ立は小學校を出て如何なる職に就く、小學校を卒業して業が宜敷いか世相が目まぐ上級へ進まれる方が多くなるべく伸張するの爲め、

遊民と謂はれて不平をいれ、現今のやうに高等の生活をせしめてゐる人々、非難の数に上つてゐる事、非難の家庭或は特殊な才分、有する兒童を持つ家庭は、別として上級學校に進ませ、

業界から見ては十三、四歳から四五年修業を続け、十八九歳位で婦人美容の術とか男子の大工とかいふ、

十八九歳以上の人を雇は、と云ふ雇傭者は殆ど絶無は、

先方で費用に適した學校へ夜間通はせ、

消極的 學費の負担を先方に持つて貰つた、

興諸院殿良橋 品譽久翁善清大居士

家運の隆盛を來し實業界の重鎮とな、

翁の英靈に告ぐ、

限悲愴の情恨なからんや、

男に生れ幼にして先代の遺業を、

郷土愛 小川郷 吉岡獨歩

一つとや 人々互ひに睦み合ひ睦み合ひ、

七つとや 佛徳願や、

青眼 石城民政支部、

名益々入會者の多きを加へ、

四十一年福島縣多額選、

郷土愛 小川郷 吉岡獨歩

一つとや 人々互ひに睦み合ひ睦み合ひ、

七つとや 佛徳願や、

青眼 石城民政支部、

名益々入會者の多きを加へ、

地方としても平町として、

郷土愛 小川郷 吉岡獨歩

一つとや 人々互ひに睦み合ひ睦み合ひ、

七つとや 佛徳願や、

青眼 石城民政支部、

名益々入會者の多きを加へ、

事業と人物欄

片倉製糸の双壁

辰野場長と小澤事務長

磐城地方事業界の勇将と好む日を追ふて一家同士の片倉製糸株式会社の...

石城鮮魚商組合

愈々取引營業を開始す

旨意書

株式会社平魚市場創立初より内蔵作用を醸しつた...

一般需要者

へ安價なものを供給せんと意氣込らるる内...

の取引状態を参考までに申す三十貫は二十貫に減ると...

組合役員

及び會員名

- 組合長 鈴木又六 副組合長 鈴木又六 會計長 鈴木又六...

時機に應じたる

もの信するのであります...

磐城業況

山城屋整理

平町四丁目三五番地の山城屋は主人を江尻陽佑と稱す...

入社

鈴木清園

今山竹吉 横山竹吉 鈴木清園...

西村屋薬店

平町二丁目西村屋の鈴木屋...

入社の

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

横山竹吉

鈴木清園

今山竹吉

お金の  
尊い事  
を痛感  
性女く働

平町の  
職業婦人總まりく  
交換姫 看護婦  
交換姫看護婦  
交換姫看護婦

交換姫

忙がしい  
忙がしい  
忙がしい

植電會社の進展振り

期十六ヶ年の  
常磐炭  
共販計畫

磐城宗教界の新人

聖愛主義の提唱者  
桐原英純師

乾布箱飼法

愛の宗教の活泉  
富まざる者より

加藤營業所

印刷の御用命は  
是非大和印刷所へ

花見の宴會

尼子亭へ  
電話二三〇番

開院廣告

ほねつぎ専門  
深谷整骨院

見習ひから一人前の看護婦等の外更に加盟外各社をも  
なり更に産婆の試験を受打つて一丸とする常磐炭田  
に道程らしい給料は病醫院  
附なら先づ二十七八四とい  
ふ所であらうが派出とな  
る二回内外、元締に頭を  
つらること云ふたけ野暮  
天である白い若物をつけて  
一寸羨ましい様に見受られ  
彼女等の内幕も余り芳ば  
しいものではない嫌な商賣  
ですわと彼女等の言ふも無  
理ではなさそうだが(續)

平町舊城跡木田藤次郎氏は  
石城養蠶獎勵會會長東北農  
業之研究十餘」として蠶業  
に盛んに活躍し其の手腕  
と力量とは斯界に重きをな  
しつゝあり、今度安達郡仁  
井田村五百川館蠶業普及會  
へ技手として招聘され來月  
下旬より約一ヶ月間を指導  
の任務に従事する由なるが  
其の教授法は氏が會つて靜  
念願して止むことなく今度

山崎登氏 錦村消防組頭に  
就任以來の氏の信譽はいや  
が上にも加り來つて其の好  
評轟々である、少年火防隊  
の組織なども見るに至つて  
縣下有数の良消防組と評判  
は近く數條の増加を見せる  
ことである

平町舊城跡に於て欣  
喜の聲が響きわたる。居るの  
寺兼職、浄土宗磐城教務所  
長たる桐原英純師は所謂世  
間で云ふ一般僧侶の俗信  
ではなく自然と歸命とに達  
して文化の聲を擧げ、  
其の一例として富まざる者  
より

今月より購読料を頂戴す  
ることになりましたから  
社費お伺への節は何卒御  
同僚御願ひ致します  
一、磐城之實業年勝手御  
購読御甘言を得度候  
一、一人にても多く御購  
讀者を加へ度く御知人に  
も御勧誘の榮を得度候  
一、時々拜趨御指導を仰  
ぐ可く候へ共御地に於け  
る有益の事件は御通信被  
下度候御出平の際には御  
立寄願上候

御世話したい  
女學生、婦人俸給者の方を家族  
的に御世話したい  
新築した閑静な場所しかも勉強には好適  
(椅子、テーブル等の設備あり)  
御希望の方は御來談下さい  
平町十五丁目二二(新川のほとり)  
鈴木 木 さま

是非大和印刷所へ  
電話四六番  
印刷の御用命は  
是非大和印刷所へ  
電話四六番

花見の宴會  
是非大和印刷所へ  
電話四六番

開院廣告  
ほねつぎ専門  
深谷整骨院  
治目 骨折 脱臼 捻挫 打撲  
無藥脊椎矯正療法  
(治目) 慢性諸病必治 急性諸病即治  
入院隨意(尚來院又ハ書信ニテ不明ノ點ハ  
出陣 深谷整骨院  
平町停車場前(舊牛馬場前)

愛の宗教の活泉  
富まざる者より  
加藤營業所  
印刷の御用命は  
是非大和印刷所へ  
電話四六番  
花見の宴會  
是非大和印刷所へ  
電話四六番  
尼子亭へ  
電話二三〇番  
開院廣告  
ほねつぎ専門  
深谷整骨院

談史餘録 江先生  
落花紛々雪紛々  
櫻田門外の血戦

頃日在京の友人より岩川鏡川著の櫻田快撃なる花月雪の三巻を寄贈された。一讀するに滿身の血湧き肉躍るの概がある畏友磐城之實業社長大和田印刷所主大和田兄が茨城出身なるに於て其の概を深ふする今や武士道、地に墜ち國民の士氣を振はざる世相に對し工門の一針である、予は茲に其を半から降り出した紛々の雪は、三日の江戸の街の朝を真白に埋めた、今日は内裏の雛、白酒の節句である將軍は城の表に御三家御三郷より閣老有司、諸大名の参賀を受けられる。

つた話は周知の事である。十七名の水戸の浪士に、薩摩の藩士有村治左衛門を加へた愛國の血に燃へた十八の士は、三日未明に芝の愛宕山に打揃つてそれから人目立たぬやう三々五々櫻田門外へやつて来た、田舎侍の江戸見物のいでたちで、御門側のヨンス張りの茶店に腰かけて、煙酒をあをりながら時の到るを待った、高橋多一郎は十八士の中で大石良雄に當る武士である、水戸の大賢藤田東湖先生も多一郎の人となりは早くよ推賞して掛かなかつた、常に彼れを評して「才氣俊敏、氣力強悍、平素人事を以て天を制せん」と、恐らくは墨の上にて死するを得た、有村治右衛門は黨中第一の劍客であつた、彼れが江戸へ出て間もない頃、橋上から堀を渡つて響き来るを合圖に諸大名の登城となつて、今の三宅阪の参謀本部のあるところに時の大老非伊掃部頭直弼の邸があつた、直弼は登城の用意にとりかゝつた、その時直弼の髪を近侍の侍が上げやうとすると、どうしたか今朝の金玉はどうか、こんな限つて如何にしても暗が縮み上つて、あては人は斬られてまゝ、直弼は「是は何か御城内に變事がある兆しかも知れぬ、急ぎ登城しやう」と言つて供揃へを至急に申付け、玄關に立出て直弼の天下に鳴る千葉周作、この直衣の裾を日頃可愛がつて事から有村は千葉の門に入つたチンが喰へて離さなかつた。

片倉磐城製糸株式會社  
平町三倉  
電話五三五番

堀江工業株式會社  
平町才樋小路  
電話五一九番

磐城建物株式會社  
福島縣平町五丁目  
電話五一八番

高久病院  
院長 高久忠  
副院長 赤羽清  
藥局長 佐竹菊雄  
平町田町(電話五二三)

清世界 釀造元  
小野晋平  
警城小名濱町

小名濱町  
町長 鈴木榮  
助役 高木保

漁業組合長 立花雄七  
小名濱町

杉山炭礦々業所  
礦主 杉山今朝吉  
石城郡内郷村

浪花炭礦々業所  
佐藤留藏  
石城郡内郷村

五十嵐炭礦 不動澤礦業所  
石城郡内郷村

小田炭礦株式會社  
萩原礦業所  
萩原申八  
石城郡好間村

古河炭礦々業所  
石城郡好間村

福島縣平町白銀町一番地  
電気機械 藤浪電機工業所  
電話八五九番

平新川町(電話四三七番)  
谷屋吳服店  
尤も新柄と良品に富む  
勉強本意の店

磐城無盡商會  
本店 植田町  
支店 平町仲町

湯本信用無盡株式會社  
湯本町(電話四七番)

株式會社 百澤商店  
平町四丁目 電話一二番

平藝妓屋組合  
平料理店組合

江名町  
中ノ作鐵工場  
吉田昌雄  
電話四一番

豊間村  
大敷綱事務所

豊間村  
濱屋旅館  
海邊の眺望頗る絶佳